

OES005-02

会場: 302

時間: 5月23日10:55-11:15

大学と地域の連携によるジオパークへの取り組み

Cooperation between local national university and regional community for installation of geopark

天野 一男^{1*}

Kazuo Amano^{1*}

¹茨城大学理学部地球環境科学

¹Dept. Earth Sci., Ibaraki Univ.

世界的に見ると、ジオパークの推進形態は様々である。地方自治体が主体になっているもの、NPOが主体になっているもの、大学が主体になっているものなど、実にバラエティーに富んでいる。日本の場合、すでに認定された3つのジオパークをはじめ、これからの認定をめざしているジオパークのほとんどは自治体を中心となってプロジェクトを推進している。ジオパークの重要な目的の一つが、豊かなジオに基づいた地域振興であることを考えると当然のことといえる。それらのジオパークでは、学術的な面は、地域の博物館研究員とその地域の研究に携わっている大学教員が個人的に援助していることが多い。本講演では、大学が組織をあげて、ジオパークの実現に向けて活動している例として茨城大学のケースを紹介したい。

茨城大学は、2009年に「茨城大学憲章」を制定した。その中で、大学の3つの重点目標の1つに、地域との連携による地域社会への貢献を掲げた。大学が今まで蓄えてきた、知的財産や人材を活用して地域の発展に寄与することが地方に位置する大学の大きな使命であるという考えは、従来の大学のあり方を大きく変えるものといえる。そして、その中の大きな目玉として茨城県北ジオパークの実現を目標に設定した。

茨城大学では、大学が呼びかけて、北茨城市、高萩市、東海村、ひたちなか市、大子町、常陸大宮市、グリーンふるさと振興機構、茨城大学を会員とした茨城県北ジオパーク推進協議会を、2010年2月24日に立ち上げた。ジオパーク推進にあたって茨城大学のはたすべき主要な役割は、①ジオサイトの設定（geo-storyの創造）、②ジオツアーの設計、③ツアーガイドの育成等である。始まったばかりのプロジェクトであるが、大学が組織をあげてジオパークに取り組むケースとしては日本では最初のものとなる。現状と将来構想を中心に話題提供し、可能性をさぐりたい。

キーワード: ジオパーク, 茨城県, 茨城大学

Keywords: geo-park, Ibaraki Prefecture, Ibaraki University